

教育システム部門紹介

八重樫 理人¹, 末廣 紀史², 近藤 まゆみ², 川口 政秀²,
 R.Yaegashi¹, N.Suehiro², M.Kondo², M.Kawaguchi²
 末光 京子², 香西 理恵³, 高橋 岳水⁴, 土居 敬典⁵
 K.Suemitsu², R.Kouzai³, T.Takahashi⁴, T.Doi⁵

(総合情報センター/工学部¹, 学術・地域連携推進室 情報グループ²,
 総合情報センター³, 医学部情報ネットワーク管理室⁴, 農学部会計係⁵)

1. 教育システム部門の概要

教育システム部門は、教育システムを中心とした全学基盤システムの運用・分析・企画をおこなう組織である。具体的には、次項に列挙するシステム・サービスの運用を担う。

現在、教員1名(兼任)、職員7名で構成されている。

2. 教育システム部門の業務と状況

i) 基盤システム

ID管理, ファイル共有, WEB, メール, LMS, 各種業務システムなどが稼働する仮想サーバ基盤の維持・システム分析・企画をおこなう。

2017年度末にはリプレースを予定しており、データセンターでの集中管理や、従量課金によるリソース提供サービスなども予定している。

ii) 教育用サービス

下記の教育・研究支援サービスの維持・分析・企画をおこなう。

(1).PC 教室

センター管轄にて11教室550台のPC教室を整備している(図1)。スマホの普及や学び方の変化から、2011年度の年間利用件数18万件/1400万時間程度から、2016年度は13万件/1100万時間ほどに減少している(図2)。学生のニーズに合った台数や利用環境を検討していきたい。



図1 コンピュータールーム4(自習用途)

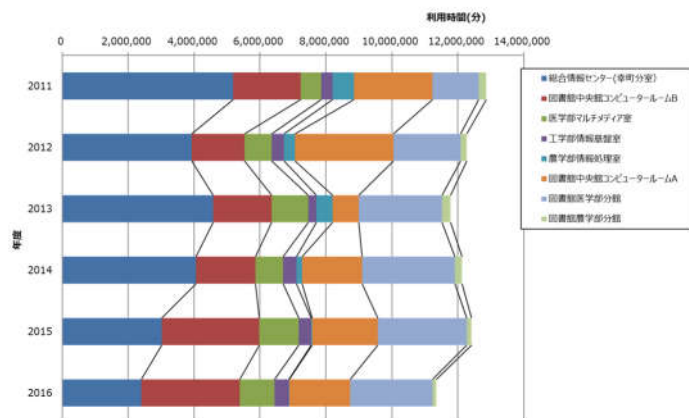


図2 パソコン利用時間推移(2011~16年)

(2).G Suite

Google社のクラウドサービスであるG Suiteに含まれるGmail等のサービスを学生に提供しているが、2016年度からはGoogleDriveも提供を開始した。効果的な利用を検討していくとともに、クラウドサービスに対するセキュリティの考え方なども啓発していきたい。



図3 香川大学 Gmail ログイン画面

(3).オンデマンドプリンタ

キャンパス間移動をしても、好きなプリンタで出力し、学生証の生協マネーで精算できる環境を整備している。学生の導線や活動場所で差異があり、PC教室の利用も下がっているが、印刷枚数は年々増加している。紙で印刷して情報を持っているという学生の行動は少なくなっていない。

(4).香川大学ダウンロードステーション

2014年度に開始したマイクロソフト包括契約を活用するため、主に教職員がインストーラーをダウンロードできる環境を整備している。3年でインストール総数は5300回を越えている。初年度のみ利用数が多いというわけでもなく、毎年同様の利用件数を維持している。

(5).学生 Office 無償提供

マイクロソフト包括契約の特典として、学生に最新版 Office を無償提供している。入学前後のガイダンスもあり、現在では8割近くの学生が利用するサービスとなっている。最新版の、同一環境の Office を提供できていることは、教育環境整備としても意義のあるものとなっている。

(6).IT 教卓など教室周辺 ICT 機器

アクティブラーニングやラーニングコモンズの環境整備の一環として、投影機器や遠隔会議などを含めた ICT 機器整備についてセンターとしても関与している。それらの機器のログ解析をし、有用性の裏付けや利活用についても支援していく。

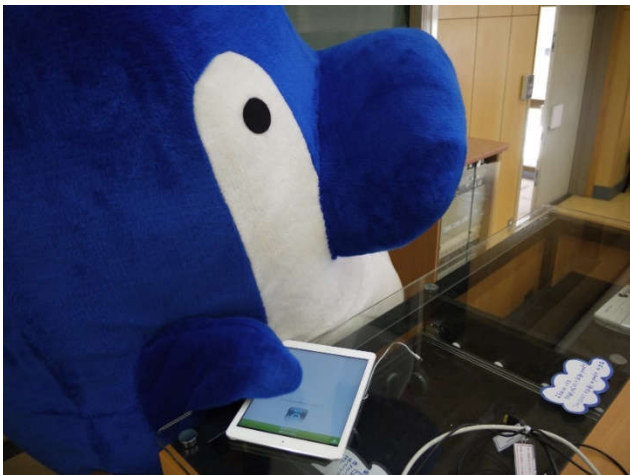


図4 IT教卓をiPadで操作

3. 2017年度活動目標

2017年度末は6年ぶりとなるコンピュータシステムのリプレースを控えており、基盤システムの再構築を予定している。

データセンターを中心とし、クラウドサービスを取り入れるといった全体コンセプトを実現しつつも、個々のサービスを振り返り、より改善していくことができる良いタイミングである。

特に、現在はサービスを分析・可視化する業務や体制に即していないという課題がある。単純な維持運用から、運用を評価できるようなルール作りを図っていきたい。

また、AIやIoTなどの注目される技術を教育システムにも活用していけるかを評価すべく、外部からの情報収集や学内FDの開催などを計画している。